

2022.03.13 (日)
オンライン開催
(Zoom)

教科教育学コンソーシアム第2回シンポジウム

教育課程の基準(学習指導要領)を
教科教育学としていかに分析・評価するか

—「カリキュラム経験」研究の視角—

笹野恵理子(立命館大学)

sasano@ss.ritsumei.ac.jp

PROGRAM

- I 「カリキュラム経験」研究という研究視角
- II 「学校音楽のカリキュラム経験」の研究事例
 - 1) 教師の「学校音楽のカリキュラム経験」
 - 2) 児童生徒の「学校音楽のカリキュラム経験」
- III 「カリキュラム経験」研究という視角からカリキュラム評価をすることの意義と可能性

本提案の趣旨

「カリキュラム経験」研究という視角から、音楽科を事例にカリキュラム評価について考える。



- カリキュラムの「生きた姿」を把握する視点：カリキュラムの動態への着目
- 当事者の「経験」のレベルで把握する視点：経験を編み上げる「人」への着目
- 「学びの履歴」から「生きられたカリキュラム」を把握する視点：主観や解釈を含めた経験の意味付与への着目

本提案の立場

学校教育の教育政策文書としての学習指導要領の検討を学術的にどのように行うか、を問い合わせ立てること

「カリキュラム経験」研究という視角

⇒カリキュラムを「生きた姿」で、「生きられたカリキュラム」を解明する試み

教育課程実施状況調査、学習指導要領実施状況調査の位置を確認すること

学力調査の結果としてだけでなく、教育条件の評価として位置付ける

⇒カリキュラムの構造、資源の配分などの要因から検討する必要性

改訂学習指導要領の内容を各教科の立場から評価するという意味ではなく、
検討対象としての学習指導要領から視点をズームアウトしつつ考えること

学習指導要領の「内容」分析から、「経験」を編む「当事者」の視点、関係性の文脈の解説へ

⇒カリキュラムを「内容」概念から「関係」概念として捉え直す立場



教育課程の基準はどうあるべきか／どのような視点と方法で評価可能か／どの結果をどう生かすか

潜在的カリキュラムの発見と「学習経験」への着目

潜在的カリキュラムの発見

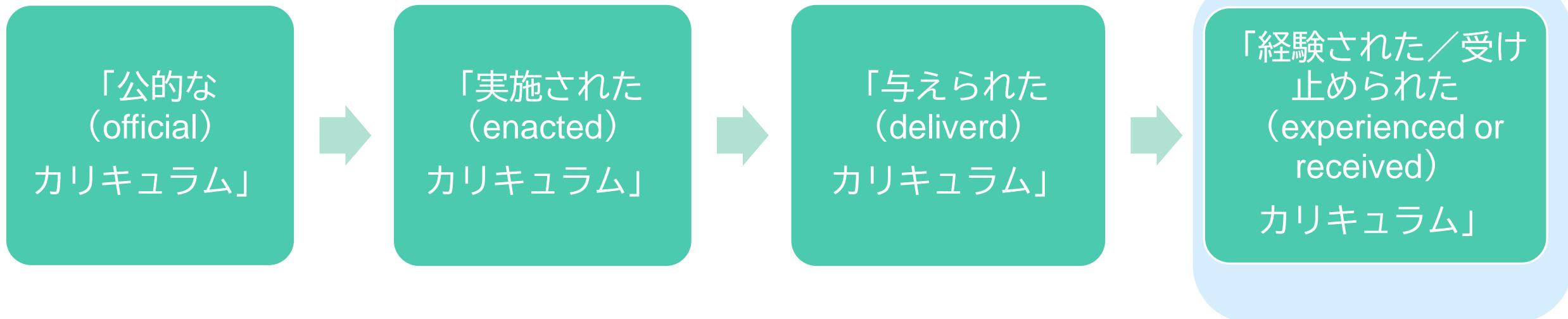
「教えられる内容」から「学ばれる内容」へ

カリキュラムの再定義

カリキュラムの「多層性」

カリキュラムの多層性

Jackson,P.W.(1992)によるカリキュラム概念の整理



IEA(国際教育到達度評価学会)によるカリキュラム概念の整理(Plomp 1999)



カリキュラムの多層性

(田中統治によるカリキュラム概念の整理)

I. 制度化されたカリキュラム：

(国家が制度化する教育課程の基準である学習指導要領)

II. 計画されたカリキュラム

(地方教育委員会や各学校が計画する年間指導計画)

III. 実践されたカリキュラム

(教授者が実践する単元や学習指導の計画)

IV. 経験されたカリキュラム

(学習者が結果的に学び経験している内容)

意図されたカリキュラム

→ 意図されなかったカリキュラム

個人の主観や解釈を経た
「経験」を含む

「カリキュラム経験」研究の問い

学校音楽カリキュラムは学校成員にどう経験されるか

- ◆紙の上のカリキュラムが実施されるとき、当事者である教師と子どもは、学校音楽カリキュラムをどのように意味づけて経験するのか。
- ◆カリキュラムに埋め込まれた教育意図をどのように意味づけるのか。
- ◆カリキュラムは当事者である教師と子どもにとってどのような姿で立ち現われるのか。

学校音楽のカリキュラム経験

- 学校音楽カリキュラムを「経験された」レベルで解明する。
- 学校音楽カリキュラムを「生きた姿」で解明する。
- 「生きられた」学校音楽カリキュラムを解明する。

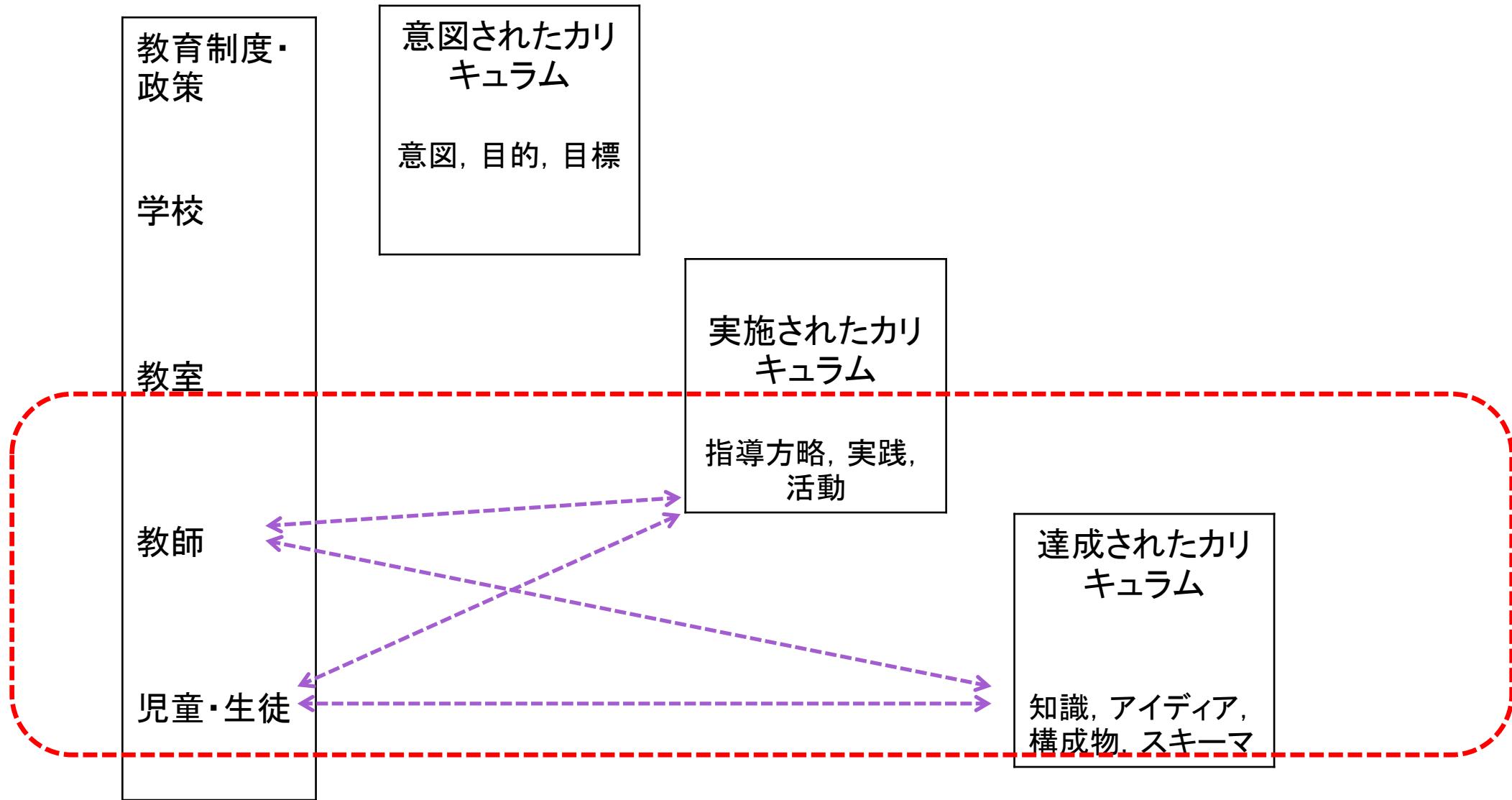
「カリキュラム経験」研究の関心は明快である。カリキュラムにおける「教育意図と学習経験の乖離」現象を解明することにある。（田中2001 25頁）

従来の教科教育学研究におけるカリキュラム論は、
主に編成方法上の問題関心に支えられた「教科内容編成論」として展開されてきた。
⇒ 編成方法上の「当為」論であった。

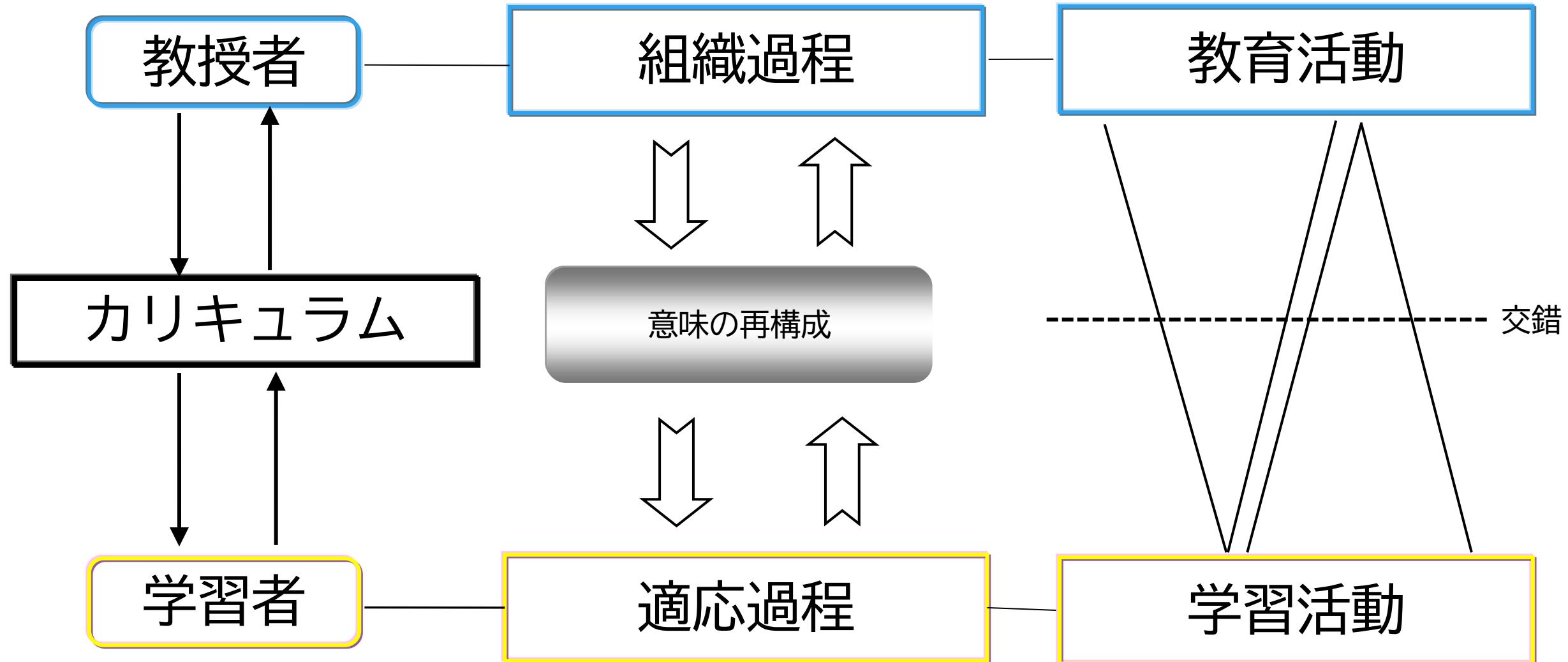
「教科内容編成論」としてのカリキュラム論の課題

- ・「教えられる内容」に関心が焦点化され、学習者によって「実際に学ばれた内容」については十分な関心が払われていない。学習経験は、教育意図との対応関係に限定され、学習者の側からみた「カリキュラム経験」は、看過されている。
- ・「教えられる内容」と「学ばれる内容」の対応関係を自明とした单一的、単線的カリキュラム観によって、学習者の経験ばかりでなく、教師の経験についても十分な配慮がされていない。教育知識が伝達されるプロセスにおける教師の主体性については、不問に付されている。
- ・現実のカリキュラムが、文書化され計画化されたレベルとは異なる文脈で、教師と児童生徒に「実施」され「経験」される可能性については、「研究の前提」から排除されている。当該カリキュラムにおける教授・学習経験が実際に生み出される動態的な過程については、閑却されている。

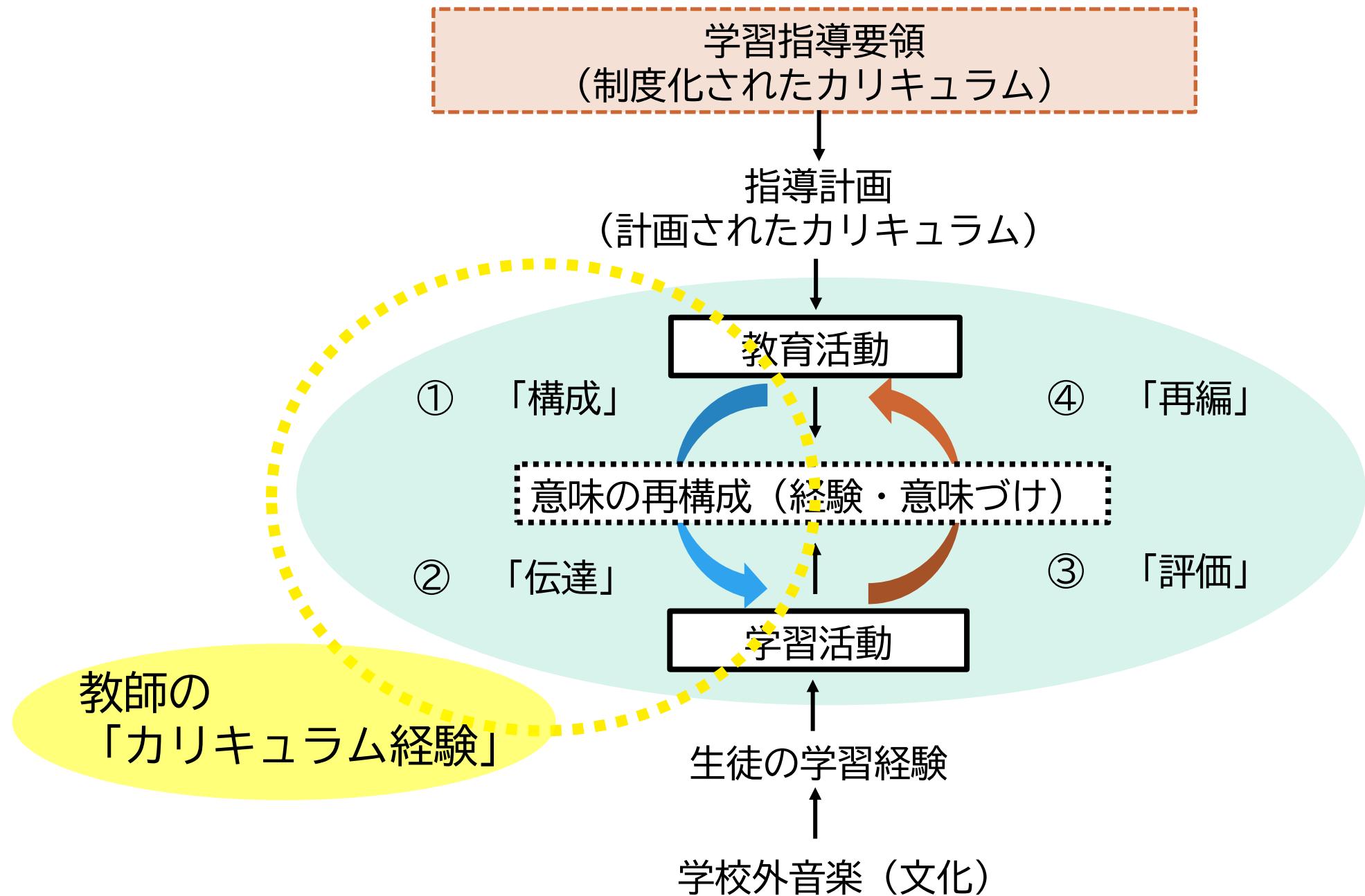
「アラインメントを捉える枠組み」(清水先生スライド) における本提案の位置



教育過程（Educational Process）における 教師・カリキュラム・児童生徒の関係性

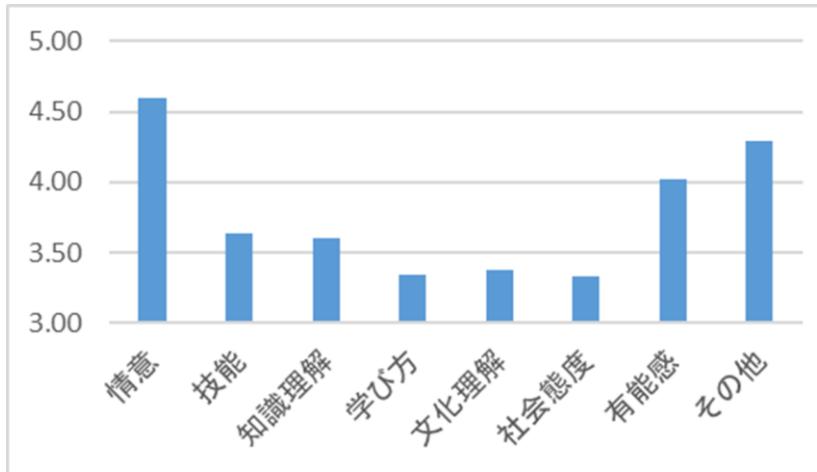


「カリキュラム経験」を把握する仮説的枠組み



教師の「カリキュラム経験」

「①構成」 教師が学校で重視している目標



教師の授業目標意識 (5点満点) N=153
笹野 (2021) 83頁 図2-3

質問紙調査から： 笹野 (2021) →
【資料1・2】 (調査基本データ)

「情意」重視の傾向がある。
性別：差がない。
学校所在地：「情意」「技能」に差がある。
学校種：小学校では、「技能」「知識理解」重視型、中学校では、「社会的態度」「文化理解」重視型の傾向。
出身学部：音楽学部出身層は、教育学部出身層に比べ「文化理解」「社会態度」重視型。

→ 【資料4・5】

「②伝達」 教師の「カリキュラム経験」の内容構造

上の項目を上位カテゴリーに含め、学習指導要領の内容などで調査項目を設定し、因子分析を施す

教師の「カリキュラム経験」の内容構造として確認した因子

「音楽協同」「音楽自発性」「音楽技能」「音楽規律」「音楽認識」「音楽情意」「音楽意味」

教師独自の枠組みで意味づけて経験内容を規定したと思われる因子「音楽協同」「音楽自発性」「音楽意味」

性別：「協同」「技能」「規律」「認識」因子について差がある。女性の得点が高い。

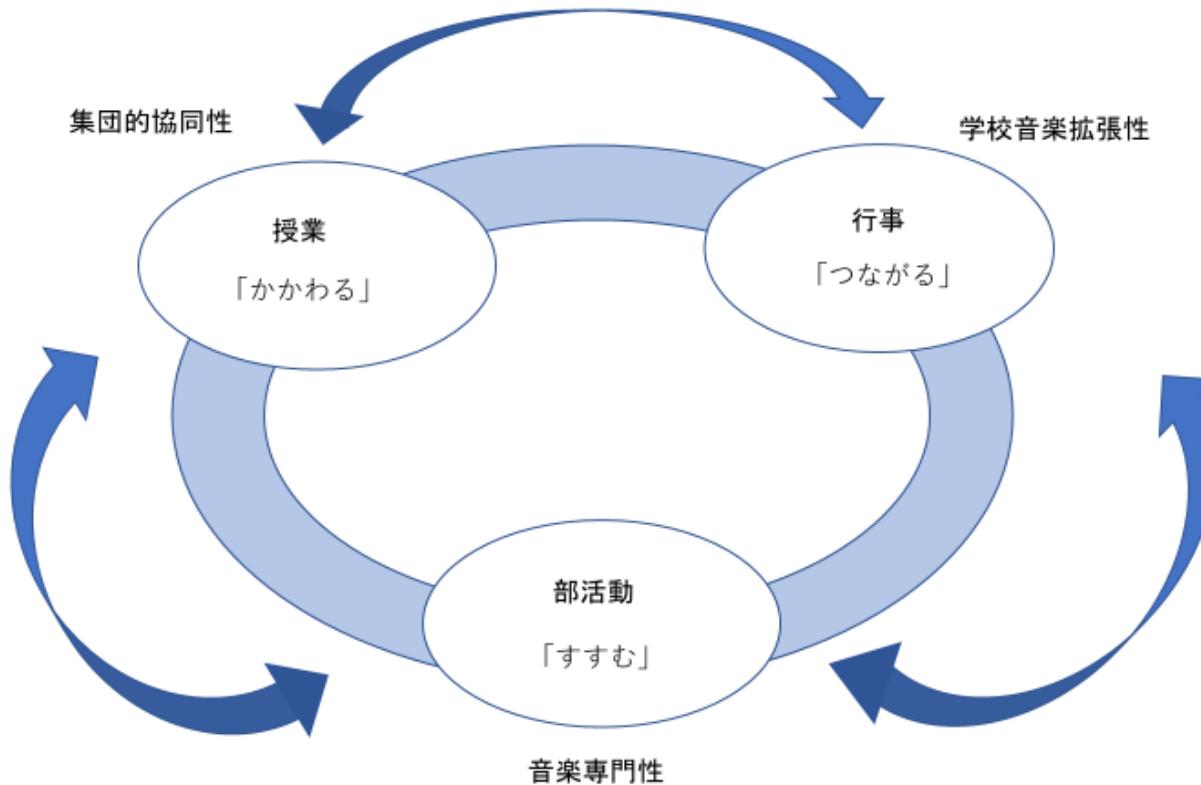
学校所在地：すべての因子に差がない。

学校種：「協同」「自発性」「技能」因子について、中学校が得点が高い。

出身学部：「技能」因子について、教育学部出身層は、音楽学部出身層より得点が高い。

→ 【資料6】

教師の「学校音楽のカリキュラム経験」の構造



教師の「カリキュラム経験」の構造

笹野 (2021) 142頁 図3-7

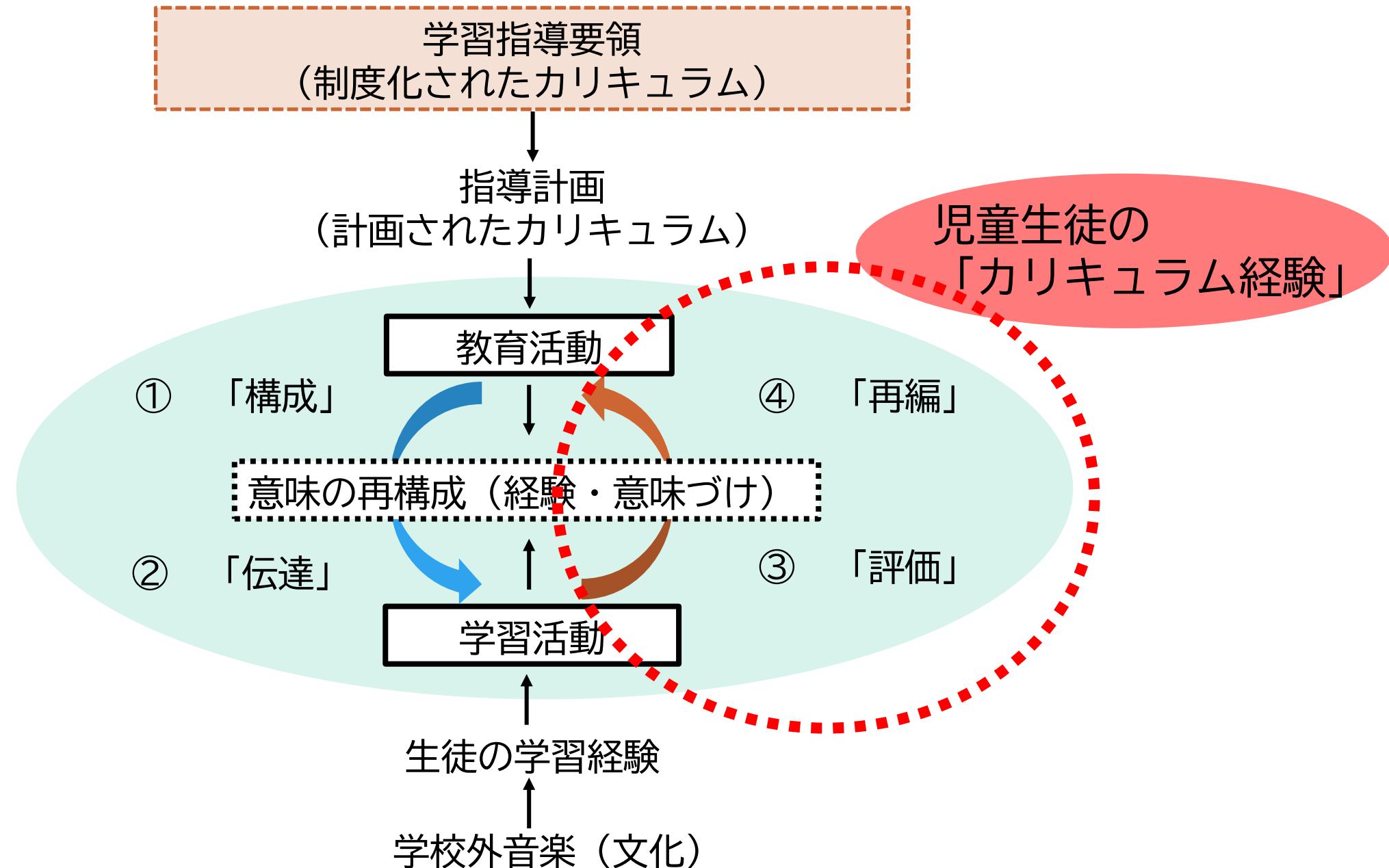
自由記述計量テキスト分析 (KHCoderを使用)
から: (笹野2021)

授業は、「行事」との強い共起関係がある。
「教科授業」の「中心性*」: 「**関わる**」
「行事」の「中心性」: 「**繋がる**」
「部活動」の「中心性」: 「**進む**」 (進路)

教師にとって学校音楽カリキュラムは、
①音楽授業と学校の音楽行事とを一体化させた、相互補完的なものとして経験される構造をもつ。
②部活動で「進路」に繋がる専門教育を補完しつつ、その効果を授業や行事に連動させる潜在的構造をもつ。

* 「中心性」は、KHCoder「共起ネットワーク」による媒介中心性

「カリキュラム経験」を把握する仮説的枠組み



児童生徒の「カリキュラム経験」

「③」評価 児童生徒の「カリキュラム経験」の内容構造

質問紙調査から： 笹野（2021）
→ 【資料7】（調査基本データ）

児童生徒の「カリキュラム経験」の内容構造として確認した因子

小：「音楽規律」「音楽意欲」「音楽認識」
中：「音楽協同」「音楽認識」「音楽意欲」「音楽規律」「音楽生活」「音楽情意」

児童生徒独自の枠組みで意味づけて経験内容を規定したと思われる因子 小「規律」 中「協同」「生活」



「④」再編 児童生徒の「カリキュラム経験」の分化

性、学校所在地、学校種、日常の音楽経験、習い事ですべての因子と関係がある。「カリキュラム経験」が異なる。

教師の「カリキュラム経験」との差異

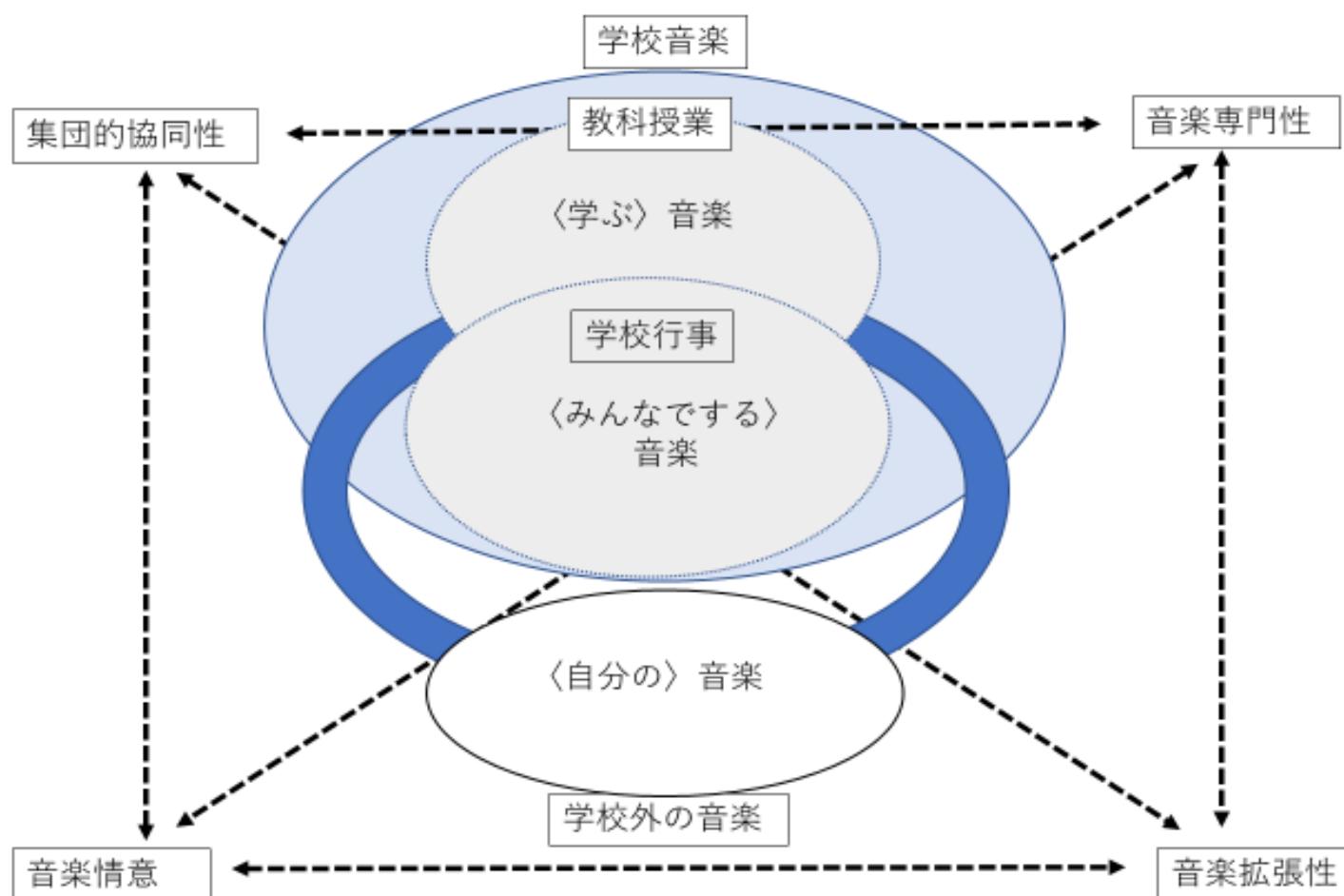
→ 【資料8】

教師：「音楽協同」「音楽自発性」「音楽技能」「音楽規律」「音楽認識」「音楽情意」「音楽意味」

小「規律」 中「協同」 教師「協同」とともに確認できた → 「集団的な経験」

児童生徒「技能」因子は確認できなかった ⇔ （教師には確認できた） ⇒ 児童生徒は「技能」をまとまりある経験として構成していない。

生徒の「学校音楽のカリキュラム経験」の構造



生徒の「学校音楽のカリキュラム経験」の構造

笹野 (2021) 244頁 図6-6

自由記述計量テキスト分析 (KHCoderを使用)
から: (笹野2021)

生徒の「中心性*」: 「合唱コンクール」

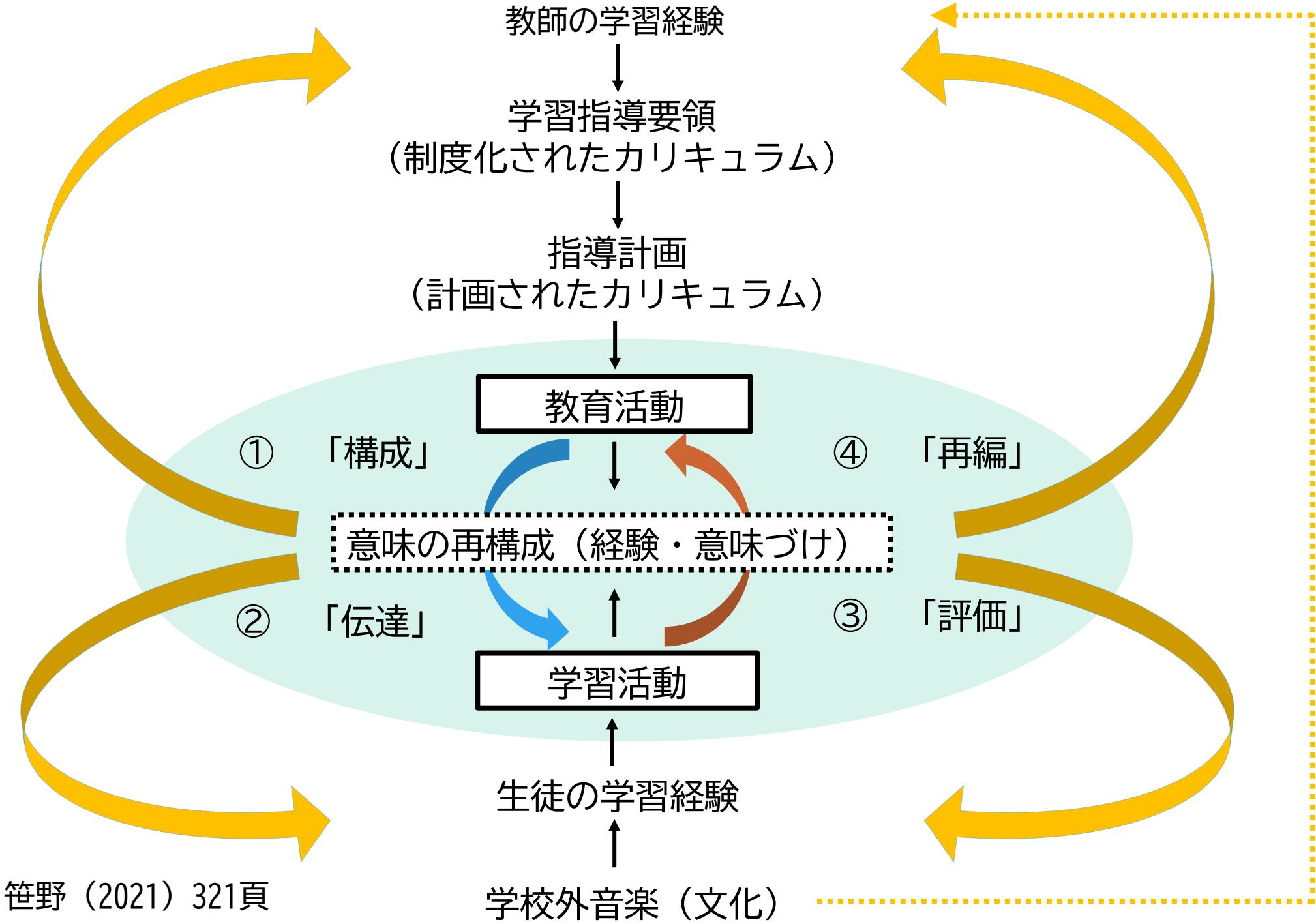
生徒は教科授業だけでなく、学校音楽行事などを含めた学校生活全体の音楽経験から
「学校音楽のカリキュラム経験」を構成する。

生徒にとって学校音楽カリキュラムは、
「学校音楽」という大きな括りの中で経験され、学校生活全体、さらに学校外の音楽経験と地続きのものとして、相互作用的に
経験される構造をもつ。

学校生活全体を通して学びを紡いでいる。

*「中心性」は、KHCoder「共起ネットワーク」による媒介中心性

学校音楽のカリキュラム経験の構成過程



「カリキュラム経験」研究という視角が 教科教育学研究におけるカリキュラム評価にもつ意義と可能性

教育課程の基準はどうあるべきか

「当事者」の視点と「関係性」の文脈をカリキュラム研究に位置付ける。
カリキュラムの流動性は「常態」である。→（「どうあるべき」の問い合わせをいったん留保し）「あり様」を問う。

どのような視点と方法で評価可能か

- 当事者の「経験」のレベルで把握する視点→カリキュラムのリアルな現実に迫れる「カリキュラム評価」視点
- カリキュラムの「生きた姿」を把握する視点→教育課程の内容を教科を取り巻く外部環境との関係において捉える「カリキュラム評価」視点

目標標準拠型 + 目標自由型

- 「生きられたカリキュラム」を把握する視点→長期的スパンに立った「カリキュラム評価」視点

どの結果をどう生かすか

教科教育学研究への新たな研究視角の提案として：（答えにかえて）

■教科教育学研究の広角化：学校●●文化研究の構想

「教科文化研究」として、教科カリキュラムを成立させるコンテクストの共通性と個別性を明らかにし得る。
社会の多様な文化との多元的、複層的なつながりを明らかに。⇒汎用的能力、教科の「見方・考え方」の解明へ

■「回顧的」カリキュラム研究（カリキュラムの効果研究）の構想

コーホート分析によって幅広い年代の「カリキュラム経験」を明らかにし、「生涯の学びの履歴」から「教科経験」（subject experience）の意味を解明する。長期的スパンに立って、教科学習の意味と効果を新たに確認し得る。⇒教科の「本質」の解明へ

引用・参考文献

- Bernstein, B. (1975) *Class, Codes and Control Vol.3: Towards a Theory of Educational Transmissions*, Routledge and Kegan Paul.=萩原元昭編訳 (1985) 『教育伝達の社会学—開かれた学校とは—』 明治図書
- Erickson, F. & Shultz, J. (1992) “Students' experience of the curriculum” in Jackson, P. W. (ed.), *Handbook of Research on Curriculum*, Macmillan, pp. 465-485.
- Jackson, P. W. (1968) *Life in classrooms*, Holt Rinehart & Winston. ; Reprinted as Jackson, P. W. (c1990) *Life in classrooms*, Teachers College Press.
- Jackson, P.W. (1992) “Conception of Curriculum and Curriculum Specialists” in Jackson, P. W. (ed.), *Handbook of Research on Curriculum*, Macmillan, pp.3-40.
- 刈谷三郎・宮本隆信・上野行一・小島郷子・笹野恵理子 (2004a) 「実技を伴う授業評価による教科横断的研究（3）—高知県児童による授業評価票試案に基づく各教科特徴—」 高知大学教育学部附属教育実践総合センター編『高知大学教育実践研究』第18号 83-96頁
- 刈谷三郎・上野行一・小島郷子・笹野恵理子 (2004b) 『教科教育における授業評価システムに関する教科横断的研究 平成13年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書』
- 松下佳代 (2000) 「『学習のカリキュラム』と『教育のカリキュラム』」 グループ・ディダクティカ編『学びのためのカリキュラム論』 劲草書房 43-62頁
- 松下佳代 (2007) 「カリキュラム研究の現在」 日本教育学会編『教育学研究』第74巻第4号 141-150頁
- 宮本隆信・上野行一・小島郷子・笹野恵理子・刈谷三郎 (2003a) 「実技を伴う授業評価による教科横断的研究（1）—高知県児童の因子分析による授業内容構造—」 『高知大学教育学部研究報告』第63号 11-28頁
- 宮本隆信・上野行一・小島郷子・笹野恵理子・刈谷三郎 (2003b) 「実技を伴う授業評価による教科横断的研究（2）—高知県児童の基礎統計による各教科の特徴—」 『高知大学教育学部研究報告』第63号 29-35頁
- Miyamoto Takanobu, Kariya Saburo, Yook Cho-Young, Ueno Koichi, Kojima Kyoko, Sasano Eriko, Ju,Sung-Bum (2011) “Attempt of Making of Teaching Evaluation vote in Republic of Korea Elementary School Practice Class –Factorial analysis of Subject Class Investigation by Students–”, *Journal of Korea Sport Research* , Vol.22(2), pp.27-47.

Miyamoto Takanobu, Kariya Saburo, Ueno Koichi, Kojima Kyoko, Sasano Eriko (2012) “The Japan-Korea comparative study of a practical skill subject lesson: Elementary school lesson comparison of Japan and South Korea”, *Korean Journal of the Japan Education , The Society of Korea for Japan’s Education* , Vol.17, No.1, pp213-229 .

根津朋実 (2006) 『カリキュラム評価の方法—ゴール・フリー評価論の方法—』 多賀出版

日本カリキュラム学会編 (2019) 『現代カリキュラム研究の動向と展望』 教育出版

Pinar, W.F. (ed.) (1975) *Curriculum Theorizing : the Reconceptualists*, McCutchan Publishing Corporation.

西園芳信 (1998) 「表現の指導と内容の評価」 日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』第2巻 70-72頁

Plomp, T. (1999) 「学力を考える—国際比較の観点から—」 国立教育研究所50周年記念教育文化フォーラム公開講演会資料

笹野恵理子 (2012) 「子どもの学校音楽カリキュラム経験の内容構造分析—日本と韓国における質問紙調査の分析を通して—」 日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』第21号 57-70頁

笹野恵理子 (2015) 「中学生の学校音楽カリキュラム経験に関する予備的研究—中学生への質問紙調査の分析を通して—」 関西楽理研究会編『関西楽理研究』Vol.32 53-70頁

笹野恵理子 (2021) 『学校音楽の「カリキュラム経験」—潜在的カリキュラムの生成過程—』 多賀出版

笹野恵理子 (印刷中) 「シニア世代の音楽学習者の『学校音楽のカリキュラム経験』－生涯音楽学習の視点からみる『回顧的』カリキュラム－」 音楽学習学会編『音楽学習研究』第17巻

清水美憲 (2020) 「学校数学カリキュラムにおけるアラインメントを検証するための理論的枠組みの構築」 日本数学教育学会編『第53回秋期研究大会発表収録』 89-92頁

高橋健夫・鐘ヶ江淳一・江原武一・増田辰夫・谷敏光 (1985) 「生徒による授業評価の検討（4）」 『体育科教育』33巻9号 大修館書店 60-65頁

田中統治 (1996) 『カリキュラムの社会学的研究—教科による学校成員の統制過程—』 東洋館

田中統治(2001) 「教育研究とカリキュラム研究」 山口満編著『現代カリキュラム研究』 学文社

田中統治・根津朋実編著 (2009) 『カリキュラム評価入門』 効草書房

田中統治・根津朋実 (2021) 『カリキュラムの理論と実践』 放送大学教育振興会

Young, M.F.D.(ed.) (1971) *Knowledge and Control: New Directions for the Sociology of Education*, Macmillan.

調査票の作成

【資料1】

- 最初に、児童生徒対象の調査票を作成し、それとの対比を念頭において、教師対象の調査票を作成
- 児童生徒対象の質問紙調査 2003年（A県公立小学校：音楽・図画工作・家庭・体育）* 2009年（韓国小学校：音楽・図画工作・家庭・体育）** 2013年（近畿圏地方都市公立中学校：音楽）*** に実施。

*宮本・上野・小島・笹野・刈谷（2003a）（2003b） 刈谷・宮本・上野・小島・笹野（2004a） 刈谷・上野・小島・笹野（2004b） ** 笹野（2012） *** 笹野（2015）

調査項目の作成

- 体育科で蓄積されている学習者による授業評価に関する先行研究*を参照し、「情意」「認識」「技能」「社会（行動）」を仮説的に設定
- 音楽科カリキュラムにおける内容構成を論じた先行研究**に照らしてその妥当性を検討
- ①「学習指導要領」、②「指導要録」、③上記先行研究において音楽科のカリキュラム経験内容を反映させると思われる項目を考案

*高橋（1985）など。 **西園（1998）

調査票の改良

- 複数の小、中学校教員との討議を踏まえ、最終的に「情意」「認識」「技能」「社会的行動」「学び方」「関心・意欲」48項目とその他「教師」項目「授業好嫌」項目「授業総合評価（肯否）」項目の54項目設定（2003年調査）
- 2003年調査項目に、韓国第7次改訂「教育課程」における教育内容「特徴理解」「美的理解」「概念理解」「価値認識」「生活科」の5項目を加えた59項目（2009年韓国調査）
- 上の2003年調査結果に因子分析を施し、因子負荷量0.4以下の項目の中から、他に包摂された形で問うことができると思われるものを削除。「特定の課題に関する調査（音楽）」（国立政策研究所教育課程センター 2010）なども含めて学校教員とブレーンストーミングを行い、「情意」「認識」「技能」「社会的行動」「学び方」項目にその他項目を加えた56項目に、学校音楽の「好嫌」、「楽しく豊かな生活をする力がつくと感じる」かどうかの「効果」、「教師」の指導の熱心さ、将来的な長期的スパンの音楽との関わりを問う4項目を加え、60項目を「設問Ⅰ」として設定。学校内外の音楽活動として、9項目を「設問Ⅱ」として設定。（2013年調査）
- 上の調査票を改良し、教師対象調査票を作成。教師の学校音楽カリキュラム実践の意識を問う項目を新たに設定。（2015年調査） → 【資料2】

調査票

フェイスシート	学校所在地、勤務学校種、性別、年齢、教職経験、出身学部、教職経験
授業関係項目	68項目(情意項目13 認識項目10 技能項目11 社会項目10 学び方項目6 その他5 総合4 目的意識7)
学校内外項目	好きな活動、嫌いな活動、授業について、部活動について、行事について、悩んでいること、その他

□調査時期：2015年3月～8月

□任意の3府県の小・中学校教員

□郵送法 N=153

基本データ

学校所在地

区分	度数	割合(%)
A県	81	52.9
B府(含C市)	72	47.1
合計	153	100.0

性別

区分	度数	割合(%)
男性	22	14.4
女性	130	85.0
不明	1	0.7
合計	153	100.0

学校種

区分	度数	割合(%)
小学校	103	67.3
中学校	43	28.1
小、中学校	3	2.0
不明	4	2.6
合計	153	100.0

教職経験年数

区分	度数	割合(%)
3年以下	14	9.2
4~10年	24	15.7
11~20年	29	19.0
21~30年	40	26.1
30年以上	46	30.1
合計	153	100.0

出身学部*

区分	度数	割合(%)
教育学部	81	52.9
音楽学部	41	26.8
その他	15	9.8
不明	16	10.5
合計	153	100.0

*教員養成系大学・学部を「教育学部」とし、「芸術・音楽系大学・学部」等の専門学部を「音楽学部」としてまとめた。

教師の授業目標意識と性別の関係

	全体(N=152)		男性(N=22)		女性(N=130)		t値	有意水準
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情意	4.60	0.62	4.55	0.60	4.61	0.63	-0.432	N.S
技能	3.64	0.74	3.41	1.01	3.68	0.68	-1.623	N.S
知識理解	3.60	0.71	3.52	0.81	3.61	0.70	-0.499	N.S
学び方	3.34	0.69	3.41	0.67	3.33	0.70	0.473	N.S
文化理解	3.37	0.73	3.64	0.79	3.32	0.72	1.866	N.S
社会態度	3.33	0.83	3.45	0.91	3.30	0.82	0.802	N.S
有能感	4.02	0.74	4.14	0.89	4.00	0.72	0.794	N.S
その他	4.29	0.76	4.33	0.58	4.25	0.96	0.132	N.S

教師の授業目標意識と学校所在地の関係

	A県(N=81)		B府(C市)(N=72)		t値	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
情意	4.47	0.71	4.75	0.47	-2.856	**
技能	3.52	0.73	3.78	0.74	-2.190	*
知識理解	3.59	0.70	3.61	0.73	-0.112	
学び方	3.32	0.74	3.37	0.64	-0.401	
文化理解	3.43	0.72	3.31	0.74	1.066	
社会態度	3.36	0.84	3.29	0.83	0.490	
有能感	3.96	0.77	4.08	0.71	-1.009	

(p<0.05*, p<0.01**, p<0.001***)

教師の授業目標意識と学校種の関係

	小学校		中学校		(参考)			
	(N=101)		(N=43)					
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差				
情意	4.57	0.64	4.63	0.62	-0.466		4.67	0.58
技能	3.74	0.72	3.40	0.76	2.614 **		3.67	0.58
知識理解	3.65	0.67	3.40	0.73	2.025 *		4.00	1.00
学び方	3.31	0.64	3.33	0.79	-0.209		3.67	0.58
文化理解	3.28	0.74	3.60	0.73	-2.450 *		3.33	0.58
社会態度	3.19	0.82	3.63	0.85	-2.915 **		3.00	0.00
有能感	4.06	0.69	3.98	0.87	0.607		3.33	0.58

※小学校と中学校間の有意差
(p<0.05*, p<0.01**)

【資料5】

教師の授業目標意識と出身学部の関係

	教育学部(N=81)		音楽学部(N=41)		その他(N=15)		F値	多重比較
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情意	4.58	0.63	4.71	0.56	4.47	0.74	0.99	
技能	3.72	0.68	3.46	0.84	3.47	0.74	1.94	
知識理解	3.64	0.73	3.46	0.71	3.60	0.63	0.81	
学び方	3.28	0.68	3.38	0.81	3.40	0.63	0.32	
文化理解	3.22	0.71	3.63	0.73	3.40	0.74	4.50 *	音楽>教育
社会態度	3.12	0.80	3.71	0.84	3.20	0.78	7.24 **	音楽>教育、その他
有能感	3.91	0.66	4.10	0.89	4.40	0.63	3.10 *	その他>教育
							(p<0.05*,p<0.01**)	

教師の授業目標意識と年代の関係

	20代(N=24)		30代(N=24)		40代(N=35)		50代(N=67)		60代(N=3)		F値	多重比較 (p<0.05)
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情意	4.67	0.48	4.58	0.65	4.57	0.66	4.60	0.65	4.67	0.58	0.10	
技能	3.71	0.69	4.00	0.78	3.63	0.69	3.52	0.75	3.00	0.00	2.56 *	30代>50,60代
知識理解	3.48	0.59	3.75	0.74	3.66	0.73	3.57	0.74	3.33	0.58	0.63	
学び方	3.21	0.66	3.54	0.83	3.23	0.69	3.36	0.65	3.67	0.58	1.15	
文化理解	3.25	0.68	3.25	0.79	3.46	0.78	3.40	0.72	3.67	0.58	0.59	
社会態度	3.13	0.68	3.29	1.00	3.26	0.82	3.45	0.84	3.33	0.58	0.77	
有能感	4.00	0.67	4.29	0.62	4.09	0.74	3.90	0.78	4.00	1.00	1.37	30代>50代
											(p<0.05*)	

教師の授業目標意識と教職経験の関係

	3年以下 (N=14)		4~10年 (N=24)		11~20年以下 (N=29)		21~30年以下 (N=40)		30年以上 (N=46)		F 値	多重比較(p<0.05)
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情意	4.57	0.65	4.67	0.48	4.59	0.68	4.60	0.63	4.59	0.65	0.08	
技能	3.64	0.74	3.79	0.78	3.76	0.69	3.60	0.71	3.52	0.78	0.76	
知識・理解	3.54	0.66	3.54	0.66	3.66	0.67	3.63	0.74	3.59	0.78	0.12	
学び方	3.21	0.80	3.38	0.71	3.28	0.70	3.30	0.76	3.44	0.59	0.48	
文化理解	3.36	0.63	3.29	0.69	3.17	0.76	3.40	0.71	3.52	0.78	1.11	30以上>20以下
社会態度	3.07	0.73	3.29	0.75	3.34	0.94	3.33	0.86	3.41	0.83	0.46	
有能感	4.15	0.69	4.04	0.69	4.21	0.73	3.88	0.76	3.98	0.77	0.99	
											(N.S)	

教師の性別と各因子との関係

	男性		女性		t 値	
	平均値	SD	平均値	SD		
因子1 協同	2.63	0.35	2.81	0.24	-3.079	**
因子2 自発性	2.55	0.41	2.69	0.29	-1.969	
因子3 技能	2.70	0.47	2.89	0.21	-3.118	**
因子4 規律	2.61	0.53	2.78	0.25	-2.304	*
因子5 認識	2.69	0.37	2.87	0.21	-3.189	**
因子6 情意	2.85	0.29	2.94	0.18	-1.952	
因子7 意味	2.88	0.28	2.87	0.23	0.081	

(p<0.05*,p<0.01**))

教師の学校所在地と各因子との関係

	A県		B府(含C市)		t値
	平均値	SD	平均値	SD	
因子1 協同	2.76	0.27	2.81	0.26	-1.219
因子2 自発性	2.66	0.33	2.69	0.30	-0.652
因子3 技能	2.86	0.28	2.87	0.25	-0.300
因子4 規律	2.73	0.33	2.78	0.30	-0.847
因子5 認識	2.83	0.26	2.86	0.23	-0.600
因子6 情意	2.92	0.20	2.93	0.20	-0.238
因子7 意味	2.86	0.26	2.90	0.20	-1.107

教師の学校種と各因子との関係

	小学校		中学校		t 値	
	平均値	SD	平均値	SD		
因子1 協同	2.82	0.23	2.69	0.33	2.590	*
因子2 自発性	2.70	0.28	2.58	0.37	2.179	*
因子3 技能	2.90	0.18	2.75	0.40	3.147	**
因子4 規律	2.77	0.30	2.69	0.36	1.402	
因子5 認識	2.85	0.24	2.82	0.27	0.485	
因子6 情意	2.92	0.21	2.92	0.19	-0.045	
因子7 意味	2.88	0.21	2.83	0.30	1.259	

(p<0.05*,p<0.01**))

教師の出身学部と各因子との関係

	教育学部		音楽学部等		t 値	
	平均値	SD	平均値	SD		
因子1 協同	2.81	0.23	2.73	0.31	1.618	
因子2 自発性	2.68	0.29	2.66	0.40	0.316	
因子3 技能	2.92	0.18	2.77	0.39	2.955	**
因子4 規律	2.75	0.28	2.68	0.38	1.140	
因子5 認識	2.85	0.23	2.81	0.30	0.788	
因子6 情意	2.95	0.16	2.88	0.24	1.917	
因子7 意味	2.88	0.22	2.84	0.29	0.885	

(p<0.01**))

因子得点は、因子負荷率0.4以上の項目を因子内項目として、各項目の平均を算出した。

また、正規性の検定（Kolmgorov-Smirnovの正規性の検定）を実施し、すべての項目で正規分布であることを確認した。

集計データ

	総計	男子	女子	未記入
中学校	1128	569	552	7
1年	416	213	202	1
2年	445	232	211	2
3年	262	123	139	0
未記入	5	1	-	4
小学校	1132	581	531	20
5年	557	285	264	8
6年	574	296	267	11
未記入	1	-	-	1
総計	2260	1150	1083	27

有効データ

	総計	男子	女子
中学校	1120	568	552
1年	415	213	202
2年	443	232	211
3年	262	123	139
小学校	1112	581	531
5年	549	285	264
6年	563	296	267
総計	2232	1149	1083

調査校一覧

番号	都道府県	学校名	校種	人数	男子	女子	未記入	配布人数	(男子)	(女子)
1	A県	a中	中	33	16	17	0	33	16	17
2	A県	b中	中	51	30	21	0	52	30	22
3	A県	c中	中	37	16	21	0	37	16	21
4	A県	d中	中	437	214	218	5	438	217	221
5	B府(C市)	e中	中	281	136	143	2	283	137	146
6	B府(C市)	f中	中	65	30	35	0	66	31	35
7	B府(C市)	g中	中	224	127	97	0	224	127	97
8	A県	h小	小	243	126	111	6	245	130	115
9	A県	i小	小	146	81	64	1	147	81	66
10	A県	j小	小	171	80	89	2	171	81	90
11	A県	k小	小	21	9	11	1	22	11	11
12	B府(C市)	l小	小	117	64	53	0	118	64	54
13	B府(C市)	m小	小	190	105	82	3	190	106	84
14	B府(C市)	n小	小	209	99	103	7	211	106	105
15	B府(C市)	o小	小	35	17	18	0	35	17	18
全体			15校	2260	1150	1083	27	2272	1170	1102
中学校			7校	1128	569	552	7	1133	574	559
小学校			8校	1132	581	531	20	1139	596	543

2016年1月～3月実施

教師調査において「協力可」と回答があった教師に依頼。

性別と因子との関係（小）

	男子		女子		t 値
	平均値	SD	平均値	SD	
規律	2.45	0.52	2.63	0.46	-6.024 ***
意欲	1.98	0.58	2.29	0.56	-9.183 ***
思考	2.13	0.56	2.21	0.53	-2.349 *

(p<0.05*,p<0.01**,p<0.001***)

性別と因子との関係（中）

	男子		女子		t 値
	平均値	SD	平均値	SD	
協同	2.34	0.55	2.51	0.50	-5.123 ***
認識	2.42	0.54	2.64	0.42	-7.611 ***
意欲	2.12	0.56	2.44	0.50	-10.298 ***
規律	2.61	0.50	2.80	0.33	-7.507 ***
生活	2.02	0.59	2.13	0.54	-3.145 **
情意	2.27	0.62	2.51	0.56	-6.716 ***

(p<0.01**,p<0.001***)

学校所在地と因子との関係（小）

	B府(C市)		A県		t 値
	平均値	SD	平均値	SD	
規律	2.5129	0.57551	2.7038	0.37222	-4.51872 ***
意欲	2.1845	0.6142	2.2403	0.53504	-1.13913
思考	2.1052	0.55104	2.4532	0.43214	-8.20059 ***

(p<0.001***)

学校所在地と因子との関係（中）

	B府(C市)		A県		t 値
	平均値	SD	平均値	SD	
協同	2.16	0.53	2.70	0.38	-19.737 ***
認識	2.33	0.53	2.74	0.36	-14.865 ***
意欲	2.08	0.56	2.49	0.46	-13.373 ***
規律	2.63	0.50	2.78	0.35	-5.850 ***
生活	1.90	0.58	2.26	0.50	-11.041 ***
情意	2.14	0.62	2.64	0.46	-15.389 ***

(p<0.001***)

学校外音楽経験と各因子との関係（小）

【資料9】

	経験多(N=702)		どちらでもない(N=135)		経験少(N=165)		F 値		多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD			
規律	2.68	0.38	2.39	0.49	2.15	0.67	98.33	***	1>2>3
意欲	2.31	0.53	1.92	0.49	1.63	0.51	128.08	***	1>2>3
思考	2.28	0.51	2.05	0.51	1.84	0.56	52.72	***	1>2>3

(p<0.001***)

学校外音楽経験と各因子との関係（中）

	経験多(N=780)		どちらでもない(N=138)		経験少(N=111)		F 値		多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD			
協同	2.48	0.50	2.36	0.54	2.13	0.60	24.457	***	1>2>3
認識	2.60	0.45	2.46	0.50	2.27	0.61	24.988	***	1>2>3
意欲	2.37	0.52	2.11	0.51	1.88	0.55	51.362	***	1>2>3
規律	2.75	0.39	2.65	0.46	2.54	0.59	14.781	***	1>2>3
生活	2.12	0.56	1.99	0.49	1.80	0.65	17.904	***	1>2>3
情意	2.46	0.57	2.30	0.60	2.04	0.68	27.754	***	1>2>3

(p<0.001***)

習い事経験と各因子との関係 (小)

	経験有(N=304)		経験無(N=580)		t 値	
	平均値	SD	平均値	SD		
規律	2.60	0.52	2.53	0.50	2.013	*
意欲	2.33	0.58	2.09	0.58	5.866	N.S
思考	2.19	0.56	2.18	0.54	0.346	N.S

(p<0.05*)

習い事経験と各因子との関係（中）

	経験有(N=253)		経験無(N=659)		t 値	
	平均値	SD	平均値	SD		
協同	2.57	0.45	2.42	0.54	3.849	***
認識	2.70	0.37	2.53	0.50	4.827	***
意欲	2.57	0.42	2.24	0.55	8.599	***
規律	2.83	0.33	2.70	0.43	4.282	***
生活	2.17	0.53	2.07	0.57	2.324	*
情意	2.55	0.52	2.38	0.61	3.921	***

(p<0.05*, p<0.01**, p<0.001***)